

「日タイまちづくり Joint Workshop in 福島」を行いました（2026/8/30～9/4）

テーマ：福島県浜通り地域の復興、交流人口・関係人口の拡大、原子力災害、学術交流協定
会場：福島県富岡町、浪江町、双葉町、大熊町

2026 年 8 月 30 日～9 月 4 日、東北大学災害科学国際研究所と福島大学行政政策学類の共催により、「日タイまちづくり Joint Workshop in 福島」を開催しました。

このワークショップは、福島県浜通り地域の原子力災害被災地をフィールドとして、交流人口・関係人口の拡大をテーマに、現場のさまざまな声を聴きながら地域の課題解決策をグループで立案・発表するプログラムです。東北大学とタイの国立大学・チュラロンコン大学（東北大学と学術交流協定を締結）の学生 24 人が参加。災害科学国際研究所からは、御手洗 潤 特任教授（空間デザイン戦略研究分野）を中心に、姥浦 道生 教授（空間デザイン戦略研究分野）、マリ エリザベス 教授（国際研究推進オフィス）、苅谷 智大 クロスアポイントメント特任准教授（空間デザイン戦略研究分野）、スクンタナソーン ナルテープ 助教（計算安全工学研究分野）がかかわりました。

2 日目の 8 月 31 日には、午前中に福島第一原子力発電所を視察。原子炉建屋近くまで足を運び、廃炉作業の状況について東京電力の担当者から説明を受けました。また、午後はワインを核とした新たなまちづくりを進めている「とみおかワイナリー」（富岡町）を見学したり、福島県の職員から観光戦略に関する講話を聴講したりするなどして、浜通り地域の現状について理解を深めました。5 泊 6 日にわたったプログラム最終日は「最終報告会」を開催。3 つのグループに分かれて検討した、交流人口・関係人口拡大のための官民主体による取組（政策）案を、グループごとに英語で発表しました。

○ グループ 1

自然と歴史、産業投資、それに広大で平坦な土地を結び付けた「リビングラボ」を提言しました。特にアグリテック（農業テクノロジー）に着目しながら、人々をひきつけて自立した地域経済の構築を目指します。

○ グループ 2

視察した学校でうかがった話から着想を得て、スポーツが地域に新たな価値をもたらす可能性を秘めていると考え、「スポーツツーリズム」を提言しました。スポーツを通して地域のつながりを強化したり、健康的な暮らしを促進したりしていきます。

○ グループ 3

インタラクティブなデジタルガイドを通して、観光地や地域の物語、文化情報、おすすめの体験を発見できる「デジタル・ツーリズム」を提言しました。「スマート・トランジット」により、都市部から浜通りへの移動と地域内での交通を支援します。

最終報告会の会場となった地域活動拠点「FUTAHOME（ふたほめ）」には、地元自治体の職員やまちづくりの関係者らが集まり、学生たちの発表にじっくりと耳を傾けました。発表後には意見交換が行われ、「浜通りの地域だからこそできることをぜひ考えてほしい」「地域が盛り上がっていないと外から訪れる人も少なくなると思われるので、そうした点もぜひ検討してほしい」といった意見が交わされました。

このワークショップは、福島国際研究教育機構（F-REI）の委託研究「福島浜通り地域における復興・再生まちづくり研究」の一部として実施されました。



「とみおかワイナリー」での集合写真



「とみおかワイナリー」で
施設の概要などの説明を聴く参加者たち



福島県の職員から観光戦略について講話



最終報告会の様子